

(別紙様式3) **令和6年度学校評価学校関係者評価報告**

学校名〔 京丹後市立峰山中学校 〕

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点(短期経営目標)	
【教育目標】 「ふるさとを愛し、多様な人とつながりながら学び、探究し続ける子どもの育成」 【めざす生徒像】 (1) 主体的に学び続ける子ども (2) 人を思いやり仲間と共に高め合える子ども (3) 粘り強く挑戦し続ける子ども 【重点課題】(社会的自立につなぐ教育) (1) 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実を図り、「主体的・対話的で深い学びの実現」に向けた授業改善の推進と学力の向上 (2) 「探究的な学び」を通じて課題解決能力をはぐくむ教育の推進 (3) つながる力を生かした豊かな人間性の育成と不登校の解消・未然防止		【授業改善と学力の向上】 ○学び合いを軸とする授業を展開することにより、多くの生徒が自分の考えを深めることができていると感じられるようになった。 △多様な学びのスタイルを視野に入れながらも、子ども達をつなぐ視点を大切に、「探究的な学び」を大切にする教育活動をととして、課題解決能力のさらなる育成を目指すことが大切である。 △家庭学習の状況に不十分さを残す中で、ICTを活用して、将来にわたって学び続ける生徒を育成するための取組を組織的に展開していく必要がある。 【豊かな人間性の育成と不登校の解消・未然防止】 △不登校出現率の減少を重点として取り組んできたが、昨年度は出現率が上昇に転じ、不登校の解消に至らない生徒もいる。今後さらなる社会的・職業的自立に向けた組織的な取組の展開と家庭との連携が重要である。		【授業改善と学力の向上】 (1) 多様な学びのスタイルを視野に入れながら、子ども達をつなぐ視点を大切に、「主体的・対話的で深い学び」から「探究的な学び」につながる授業改善を図っていく。 (2) 学び合いをととして主体性を引き出し、コミュニケーション能力やつながる力など、非認知能力の育成を意識した教育活動の展開を図る。 (3) 家庭学習の状況に係る課題を改善するため、ICTを活用して、将来にわたって学び続ける生徒を育成するための取組を組織的に展開する。 【豊かな人間性の育成と不登校の解消・未然防止】 (1) 豊かな人間性を育成するため教職員の人権感覚を高め、すべての生徒との心の触れ合いを大切にする指導を徹底する。 (2) 「つながる力」の育成を意識した教育活動を展開し、将来的孤立の未然防止に努めるとともに、すべての生徒に「居場所」をつくる取組を展開する。	
評価項目		重点目標		具体的方策	
学校教育計画及び各学園の重点、保幼小中一貫教育の諸計画として	教育課程 学習指導	◇認知能力と非認知能力を一体的に伸長させる学力向上・授業づくり (1) 「協働的な学び」を充実するための授業改善とICT機器の活用 (2) 個別指導の充実と学習機会の場の提供と評価 (3) 授業とつなげる家庭学習の工夫		◇「協働的な学び」をととして主体的に他者とかかわり、多様な考え方を自らの思考に落とし込み考察し、解決方法を導き表現できる力を育む探究的な授業への移行 ◇共同編集や他者参照など、タブレットやICT機器を効果的に活用した授業展開の工夫 ◇「主体的・対話的で深い学び」「探究的な学び」を実現する授業づくりについての授業研究会と毎月の教科部会の定例化 ◇グローバル人材の育成と英語力の向上 ◇教科授業、あるいは「総合的な学習の時間」、道徳教育、特別活動を効果的・有機的に関連させた教科横断的な教育実現のためのカリキュラムマネジメントの推進 ◇家庭学習の充実を含む個別最適学習の推進 ◇特支学級・別室生徒を含む学習面の課題をもつ全ての生徒への責任あるフォローアップと進路実現	
		成果と課題（自己評価）		学校関係者評価	
		○複線型授業を積極的に取り入れ、生徒同士のかかわりや気づきを大切にした授業が定着しつつあり、授業中の生徒の活動が活性化し、学力向上にも繋げることができた。 ○タブレット等のICT機器活用が進み、新たな授業スタイルを生み出すことができた。 ○外部講師を招聘した公開授業や研修会を継続して開催したり、自主的な授業改善を組織で展開したりして、多くの教師の授業スキルが向上した。 ○市海外派遣、SeaLabo、リーディングコンテスト等に本校生徒が積極的に参加し、グローバルリーダーとしての力を身に付けることができた。 ○校内フリースクール運用方針に基づいて、別室生徒の学習支援を組織で展開した。 ○タブレットを活用し、授業と家庭学習の関連付けや学習習慣の定着を進めていく必要があるとともに、「指導の個別化」を具現化していくための教師の意識改革とDXの重点投入が今後求められる。		・授業参観において、タブレットの活用や生徒同士が相互に関わる学習が展開され、授業における新たな学びのスタイルに衝撃を受けた。教員の授業における工夫が見られ、評価できる。 ・不登校生徒等が学べる環境をさらに整えていくことを期待したい。	

生徒指導	◇発達支持的生徒指導の展開 (1) 教師と生徒、生徒同士のつながりを重点に置いた生徒指導の展開 (2) 主体的活動の活性化	◇自己指導能力の育成を意識した発達支援的な関わりを重視した学級経営 ◇生徒の思いに即応できる相談窓口の複数設置と面談等の充実 ◇いじめの早期発見・早期対応・未然防止 ◇不登校・不適応傾向生徒に係る課題の解決に向けた教育相談体制の強化 ◇集団のつながりとうねりを生み出す学年の枠を越えた活動 ◇主体的活動の積極的な外部発信 ◇学校のきまりに係る討議の活性化や生活向上の取組の展開	○かかわりを大切にした発達支持的生徒指導を展開し、学級等における心理的安全性が向上した。 ○タブレットを活用した本校独自の相談窓口や市 Standby を活用して、生徒の悩みにリアルタイムで対応できるようになった。 ○スクールカウンセラーや SSW の助言を、積極的に校内会議やコンサルテーションに生かした。 ○コミュニケーションやキャリアの意識を育てる講演会やワークショップの開催などをとおして、非認知能力を育てる取組を展開した。 ○生徒会活動や峰山学園の取組を活性化し、地域と協働して取組を進めた。	・学校のきまりについて、生徒の意見をもとに検討されているが、具体的に改善に向けた動きにつなげられることを期待したい。
健康（体育）・安全	◇保健教育の充実と管理の徹底 ◇安全意識の向上の取組 ◇部活動の充実と体力の向上	◇命の大切さや自他の心身の健康安全への理解を図る取組の充実 ◇継続的な交通安全指導と意識の向上を図る取組の展開	○毎学期の避難訓練に加えて、今年度は京丹後警察の協力を得て不審者対応訓練を実施することができた。 ○自転車関連の事故増加を機に、生徒会・PTA・警察等と連携した交通安全運動を地域で展開できた。	・事故多発時に早期に、生徒会を主体とした取組が行われ、評価できる。
特別支援教育	◇合理的配慮の継続的支援と組織的対応 (1) きめの細かい個別支援 (2) 家庭、関係機関との連携強化 ◇実践的指導力の向上 (1) 校内指導体制の機能化 (2) 支援の充実と研修の充実	◇特別支援教育関係文書 3 点セット（アセスメントシート・個別的教育支援計画・個別の指導計画）の活用による生徒支援の充実 ◇通常学級における特別に支援を要する生徒に対する個に応じた指導の充実 ◇定期的な研修の実施による全教職員の資質・能力の向上	○保護者との連携を軸にした詳細な見立て、指導資料、移行支援資料などを組織的に作成・運用し生徒の指導や支援に生かすことができた。 ○スクールサポーター等の丁寧な支援により、通常学級、特別支援学級、別室など、様々な場の生徒に、適切な指導を展開することができた。 ○コーディネーターを中心とした組織的指導体制が確立しており、校内研修等も充実した。	・特別支援教育の充実に向け、生徒、保護者との連携を引き続き大切にしていきたいと思います。
人権教育	◇生徒の集団の中での人間関係づくり (1) 成長し合う人間関係の形成 (2) 自尊感情の育成と他者への理解・尊重・共感性の涵養 ◇教職員の人権意識の高揚 (1) 人権尊重の理念についての認識深化 (2) 研修の推進	◇全教育活動における、互いを理解・尊重しながら信頼で結ばれ成長し合える人間関係の形成 ◇自尊感情の育成と他者理解・尊重、共感性の涵養 ◇同和教育の成果と手法への評価を踏まえた継承と活用、あらゆる人権問題についての研修の推進 ◇一人ひとりを大切にする教育の推進とコンプライアンスの堅持のための、望ましい教職員の行動及び指導に係る研修、職場環境の整備の充実及び業務改善の推進	○『心を広げるコミュニケーション講座』として、他者理解や人権の尊重を基盤に置き共生・協働を希求する教育プログラムを展開した。 ○生徒会活動の活性化や峰山学園一体となった取組などをとおして自立を目指す主体的活動に重点を置いた教育を展開した。 ○同和問題に関するワークショップ形式の校内研修会を開催した。今後も定期的の実施していく必要がある。 ○法令遵守や一人ひとりの人権を尊重した生徒との関わりや職場環境づくりのための研修会を開催し、発達支持的生徒指導の具現化に努めた。	・ジェンダーを配慮した制服等に変更されているため、きまりが今の時代にあったものか等について見直すことを期待したい。
次年度に向けた改善の方向性	(1) 今年度の成果を生かしたより効果的・効率的な授業改善の取組を継続して推進していく。とりわけ全教育活動を繋ぐカリキュラムマネジメントの手法により、教育効果を高めつつ取組や行事のスリム化を図っていく。また、課題となっている「指導の個別化」について、様々な教育資源を活用しながら、「誰ひとり取り残さない教育」を展開していく。 (2) ICT を活用し、作成文書のペーパーレス化や軽量化、廃止等、校内の業務改善を強力に進め、業務を軽減しゆとりをもって生徒指導や学習指導を行える環境整備を行っていく。			・働き方改革の視点で具体的な業務改善が進められることを期待する。

(別紙様式 3) **令和 6 年度 学校評価 学校関係者評価報告**

学校名〔 京丹後市立大宮中学校 〕

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点(短期経営目標)	
(大宮学園教育目標) 「自他を尊重し、自ら学ぶ子どもの育成」 (大宮中学校重点目標) 「ふるさとを愛し、夢や希望をもって未来を切り拓く、心豊かでたくましい生徒の育成」 ～人権尊重を基盤に、個をほめて、集団で認めて、他者(集団)とつなぐ～ (実践上の視点) ○生徒一人一人が「自己指導力」を身に付けるための支援(あらゆる教育活動の中で) ・「安全・安心な風土」の醸成 ・「自己存在感」を育てる ・「共感的な人間関係」を育てる ・「自己決定の場」の提供 ○「居場所づくり」と「絆づくり」 ・自己存在感が感じられる場所作り(教職員) ・主体的・共同的な活動を通して「絆」を紡いでいく(生徒自身)		○大宮学園「授業づくりの視点8」「言語活用カリキュラム」「人権教育カリキュラム」の活用による授業改善に取り組み、生徒、および保護者のアンケート項目「中学校で学力が上がったと思う。」の肯定的回答が向上した。 ○ICTの利活用や校内・校外の各種授業研究などを通じた授業の工夫・改善により、アンケート項目「工夫した方法で理解しやすい授業」「わかりやすい授業」などの授業に係る項目で生徒の9割以上が肯定的な評価であった。 ○人権教育を基盤にした生徒指導・学習指導等により。「他者の心を大切にし、思いやりがある」と9割以上の生徒及び保護者が評価している。 △キャリア教育の推進や自ら計画を立てて学習するなど自主的・自発的な学習の習慣化について、自己調整力に着目しながら取組を進める。 △生徒指導提要等の趣旨を十分に理解したうえで魅力ある学校づくりに努めるとともに、不登校の未然防止や自らの進路を主体的にとらえた社会的自立に向けた支援を行う。		○一貫教育を通じた「グローバル人材」の育成 ・すべての人権を尊重することのできる生徒の育成 ・多様な他者となつがり、ともに協働しながら学びを深め成長する生徒の育成 ○生徒指導の充実(不登校の未然防止) ・生徒が自己指導力を身に付けるための支援 ・生徒が安心でき、自己存在感や充実感を感じられる場所を作り出すこと ・生徒が主体的に取り組む共同的な活動を設定すること ○確かな学力の育成 ・小中で連携した「主体的・対話的で深い学び」を実現するための授業研究と授業改善 ・丹後学におけるICTの更なる活用や地域の外部人材の活用等を通じた「探究的な学び」の研究 ○信頼される学校づくり ・家庭及び地域との連携推進と外部関係機関との連携強化 ・「パートナー」としての学園学校運営協議会との協働	
評価項目	重点目標	具体的方策		成果と課題(自己評価)	学校関係者評価
学校教育指導の重点、 諸計画及び各学園の重点、 幼稚園・小中一貫教育の 重点等 を基盤として	教育課程 学習指導	・大宮学園一貫教育の「人権教育カリキュラム」を活用して人権意識の醸成、また「言語活用カリキュラム」を活用して確かな学力の育成に取り組む。 ・大宮学園「授業づくりの視点9」をもとに、生徒が他者との関わりの中で学びの主人公として多くの力が身に付けられるよう学園、校内の授業研究を通して、魅力ある授業を作り上げる取組を行う。 ・市の「丹後学モデルカリキュラム作成研究協力校」指定を活用し、学園教育の基盤である「人権教育」の更なる充実をはじめ、ICTの更なる効果的な活用や地域人材の活用を通じた探究的な学びについての研究を進める。 ・各種調査やアンケートの結果分析から指導・支援策を検討		○急速に変化し続ける今後の社会を生き抜くために必要な学力について、「なぜ学ぶのか」、また「学び方を学ぶ」など、日々の授業と並行して学びの意義や必要性について指導を行い、実際の授業では単元指導計画における工夫改善を施している。これらのことは保護者へも様々な機会を通じて発信している。 ○「授業が分かりやすい」「いろいろと工夫した方法で理解しやすい」「丁寧に教えてくれる」などのアンケート結果において、生徒で3P以上上がり95%、保護者も2P以上上がり、初めて90%を上回る肯定的評価となった。 △今後必要となる学力(認知・非認知)、及び学力向上のための具体的取組について、機会を設定する中で継続して丁寧に説明するとともに更なる工夫改善に取り組む。	○学び方や授業など「観」が変化することを生徒や保護者へ伝えることもアンケート結果の肯定的評価の向上につながっている。 △失敗してもあきらめず何度も挑戦する生徒の育成が大切。

生徒指導	①生徒指導提要に基づく不登校の未然防止と早期対応 ②組織としてのいじめ把握と未然防止を徹底 ③学習指導との連動	・教職員一人ひとりが人権尊重の基盤に立ち、すべての生徒を大切にする指導・支援を、家庭・地域とともに協働して行う教育活動を学校組織として行う。 ・生徒指導提要の再確認により、生徒との良好な関係構築を目指し、その中から一人一人の実態を的確に把握し、指導・支援につなげるスタイルの実践強化を学習指導でも図る。 ・実態把握と指導（記録）確認のための各種会議の定例化継続、あわせて、校内人材の有効活用、外部の関係機関等との連携による総合生徒支援による生徒指導に取り組む。	○生徒指導部会と教育相談部会を毎週実施する中で、今年度は、特に個々のケースに係る方針立てと具体的な支援等をＳＣなど専門家の意見も参考にしながら確認し、タイムリーな指導・支援につなげることができている。 ○「大宮中の教育は信頼できる」のアンケートで、生徒 97.6%、保護者 90%の肯定的評価であった。 ○△校内別室を活用する中で好転している不登校傾向等生徒がいる。今後更なる活用方策を探る。 △ＳＮＳに係る事象については、保護者と学校がそれぞれ取り組むべき指導と支援を整理、理解した上で連携のあり方について協議していく。	○別室の活用は良い。 ○△今後も生徒の居場所を作り、登校できなくても学校や社会とのつながりが途切れないように支援していくことが必要。
健康（体育）・安全	①安全教育、健康教育、及び防災教育の充実	・急速に進化、普及する携帯端末やＳＮＳに係る取扱いについて、非行防止教室やネットモラル教育、さらには薬物乱用防止教室を活用しつつ、人権学習や性の学習等とも連動させ、年間を通して総合的な指導・支援を組み立てる。 ・地震等の自然災害やＪアラート、交通事故や食物アレルギーなどへの丁寧で確実な対応を危機管理の面からも行う。	○情報モラルに係る指導を非行防止教室や人権教育と絡め計画的に実施し、便利さと危険性について年間を通じて継続的に指導に取り組んだ。 △携帯端末の校内への持ち込み事案が増加している。保護者と生徒、学校とで今後のＳＮＳに係る利活用について検討していく機会をＰＴＡ等とも連携する中で設定していく。	○△ＩＣＴの普及により直接話すコミュニケーションの大切さや必要性が見直されている。継続指導を。
危機管理	①人権尊重を基盤とした指導・支援 ②コンプライアンス遵守の徹底	・定期的な校内研修により、生徒や保護者をはじめ、すべての人に対する人権尊重、及び人としてのコンプライアンス遵守を徹底する。 ・人権教育加配の教職員支援機構による人権教育研修や丹後人権教育研究会での実践発表を、校内等における人権教育の更なる充実の機会ととらえ活用する。 ・すべての教育活動に対して、リスクマネジメントとセットにクライシスマネジメントを行う。	○人権教育を全教育活動の基盤とし、人権学習としての直接学習とともに日常の中にあるすべての人権について意識して感じ考えることを、人権だより等の発行を通じて行った。 ○個別的な視点に係る「障がい」について、外部講師による体験型授業を活用し学びが深まった。 ○「他者の心を大切にし、思いやりがある」のアンケート結果で95%の生徒が肯定的評価であった。 △地域と共にできる人権に係る取組を検討する。	○△今後も他者を意識する活動の中で、人権をはじめ人とのつながりを考える機会を設定することが必要である。
開かれた学校づくり	①学校（学園）運営協議会、各関係機関との連携・協働 ②地域の教育資源の積極的な教育活動への有効活用	・小中一貫教育コーディネーター及び地域コーディネーターと連携し、パートナーとしての学園学校運営協議会との協働を進め、地域とともにある学校・学園をさらに目指す。 ・関係諸機関との丁寧な情報共有により、生徒及びその家庭への支援等を総合的に組み立てる。	○「教育方針は期待に応えるもの」90.4%、「家庭や地域に開かれている」80.7%、「行事など気楽に訪問できる」86.7%と肯定的評価を得ている。 ○総合的な学習の時間において、地域の事業所との連携した学びに取り組むことができ、次年度以降の学びの充実につなげることができた。 △地域の方々と共に探究する学習内容を、ＰＴＡや学校運営協議会等との連携から検討したい。	○探究的な学びの充実に係る地域の人材活用は良い。継続して更なる充実を目指してほしい。
次年度に向けた改善の方向性	1 人権教育をすべての教育活動の中に位置付け、教育実践をさらに充実・推進させていくこと。 2 総合的な学習の時間における「探究的な学び」の手法について、各教科でも実践していくための教科等横断的な学びの研究を進める。 3 ＰＴＡや大宮学園学校運営協議会、また学校評議員会をはじめとする地域の各関係機関と共にある学校・学園を目指すため、積極的に連携・協働を行う。			

生徒指導	①生徒指導提要に基づく不登校の未然防止と早期対応 ②組織としてのいじめ把握と未然防止を徹底 ③学習指導との連動	・教職員一人ひとりが人権尊重の基盤に立ち、すべての生徒を大切にする指導・支援を、家庭・地域とともに協働して行う教育活動を学校組織として行う。 ・生徒指導提要の再確認により、生徒との良好な関係構築を目指し、その中から一人一人の実態を的確に把握し、指導・支援につなげるスタイルの実践強化を学習指導でも図る。 ・実態把握と指導（記録）確認のための各種会議の定例化継続、あわせて、校内人材の有効活用、外部の関係機関等との連携による総合生徒支援による生徒指導に取り組む。	○生徒指導部会と教育相談部会を毎週実施する中で、今年度は、特に個々のケースに係る方針立てと具体的な支援等をＳＣなど専門家の意見も参考にしながら確認し、タイムリーな指導・支援につなげることができている。 ○「大宮中の教育は信頼できる」のアンケートで、生徒 97.6%、保護者 90%の肯定的評価であった。 ○△校内別室を活用する中で好転している不登校傾向等生徒がいる。今後更なる活用方策を探る。 △ＳＮＳに係る事象については、保護者と学校がそれぞれ取り組むべき指導と支援を整理、理解した上で連携のあり方について協議していく。	○別室の活用は良い。 ○△今後も生徒の居場所を作り、登校できなくても学校や社会とのつながりが途切れないように支援していくことが必要。
健康（体育）・安全	①安全教育、健康教育、及び防災教育の充実	・急速に進化、普及する携帯端末やＳＮＳに係る取扱いについて、非行防止教室やネットモラル教育、さらには薬物乱用防止教室を活用しつつ、人権学習や性の学習等とも連動させ、年間を通して総合的な指導・支援を組み立てる。 ・地震等の自然災害やＪアラート、交通事故や食物アレルギーなどへの丁寧で確実な対応を危機管理の面からも行う。	○情報モラルに係る指導を非行防止教室や人権教育と絡め計画的に実施し、便利さと危険性について年間を通じて継続的に指導に取り組んだ。 △携帯端末の校内への持ち込み事案が増加している。保護者と生徒、学校とで今後のＳＮＳに係る利活用について検討していく機会をＰＴＡ等とも連携する中で設定していく。	○△ＩＣＴの普及により直接話すコミュニケーションの大切さや必要性が見直されている。継続指導を。
危機管理	①人権尊重を基盤とした指導・支援 ②コンプライアンス遵守の徹底	・定期的な校内研修により、生徒や保護者をはじめ、すべての人に対する人権尊重、及び人としてのコンプライアンス遵守を徹底する。 ・人権教育加配の教職員支援機構による人権教育研修や丹後人権教育研究会での実践発表を、校内等における人権教育の更なる充実の機会ととらえ活用する。 ・すべての教育活動に対して、リスクマネジメントとセットにクライシスマネジメントを行う。	○人権教育を全教育活動の基盤とし、人権学習としての直接学習とともに日常の中にあるすべての人権について意識して感じ考えることを、人権だより等の発行を通じて行った。 ○個別的な視点に係る「障がい」について、外部講師による体験型授業を活用し学びが深まった。 ○「他者の心を大切にし、思いやりがある」のアンケート結果で95%の生徒が肯定的評価であった。 △地域と共にできる人権に係る取組を検討する。	○△今後も他者を意識する活動の中で、人権をはじめ人とのつながりを考える機会を設定することが必要である。
開かれた学校づくり	①学校（学園）運営協議会、各関係機関との連携・協働 ②地域の教育資源の積極的な教育活動への有効活用	・小中一貫教育コーディネーター及び地域コーディネーターと連携し、パートナーとしての学園学校運営協議会との協働を進め、地域とともにある学校・学園をさらに目指す。 ・関係諸機関との丁寧な情報共有により、生徒及びその家庭への支援等を総合的に組み立てる。	○「教育方針は期待に応えるもの」90.4%、「家庭や地域に開かれている」80.7%、「行事など気楽に訪問できる」86.7%と肯定的評価を得ている。 ○総合的な学習の時間において、地域の事業所との連携した学びを取り組むことができ、次年度以降の学びの充実につなげることができた。 △地域の方々と共に探究する学習内容を、ＰＴＡや学校運営協議会等との連携から検討したい。	○探究的な学びの充実に係る地域の人材活用は良い。継続して更なる充実を目指してほしい。
次年度に向けた改善の方向性	1 人権教育をすべての教育活動の中に位置付け、教育実践をさらに充実・推進させていくこと。 2 総合的な学習の時間における「探究的な学び」の手法について、各教科でも実践していくための教科等横断的な学びの研究を進める。 3 ＰＴＡや大宮学園学校運営協議会、また学校評議員会をはじめとする地域の各関係機関と共にある学校・学園を目指すため、積極的に連携・協働を行う。			

(別紙様式3) **令和6年度学校評価学校関係者評価報告**

学校名〔 京丹後市立網野中学校 〕

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点（短期経営目標）					
将来に夢と希望をもち、郷土を愛し、知・徳・体の能力を伸ばす生徒の育成を図る教育の推進 1 規範意識を醸成し、落ち着いた学校、落ち着いた授業により学力を付ける。 2 未来を展望し、自ら未来を切り拓く力を付ける。 3 思いやりをもち仲間とともに生きる、豊かな人間関係を築く力を育てる。 4 自然・人・社会とつながり、郷土を愛する心を育てる。		○第2期「未来を拓く学校づくり」推進事業に学園として取り組み「育てたい非認知能力(指標)」を意識した教育活動推進、ギミックブラッシュアップシートを活用した授業づくり等に取り組んだ。 ○教科の指導と生徒指導の一体化を意識した指導、組織的な対応、支援を要する生徒への丁寧で適切な対応や関係機関との連携を図った。 △さらに日々の授業、家庭学習の中でタブレットの利活用を効果的に進める。 △早期の実態把握と対応、改善、解消に危機感を持ち、指導や支援にあたりともに、さらに関係機関との連携を進め、生徒の実態や生徒・保護者のニーズにあった教育支援を充実させる。		「ほめて、認めて、他者（社会）とつなぐ指導」の展開 「つながろう仲間と つなげよう心を！」を生徒の合言葉に、常につながりを意識させ学校生活を充実させる。 1 「未来を拓く学校づくり」推進事業の研究を通じた授業づくり及び授業改善 2 豊かな人間性の育成、規範意識の醸成 3 不登校の未然防止と丁寧な支援 4 特別支援教育の充実 5 信頼される学校づくり～家庭との連携強化 6 網野学園学校運営協議会との協働					
評価項目		重点目標		具体的方策		成果と課題（自己評価）		学校関係者評価	
学校教育指導の重点、諸計画及び各学園、保幼小中一貫教育の重点等として	教育課程 学習指導	1 「未来を拓く学校づくり」推進事業を通じた研究推進と授業実践力の向上 2 家庭学習時間の確保と家庭学習の習慣化		・第2期「未来を拓く学校づくり」推進事業最終年の取組を学園一体で進めるとともに、本校の学校力の向上につなげる。具体的に非認知能力の育成を研究の柱にした授業づくり、授業の改善、そして教育活動の推進を図る。 ・「主体的に学ぶ力」や「コミュニケーション能力」等の育成を通して、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を進めるとともに、タブレットの利活用により「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させ、探究的な学びの充実につなげる。 ・学園組織を活用し、系統的に家庭学習の指導を行い、習慣化及びタブレットの効果的な活用を図る。		○非認知能力育成を柱にした第2期「未来を拓く学校づくり」推進事業の研究による学校力向上を目指した結果、総合的な学習の時間も含め探究的な学びが充実し、授業改善への肯定的な評価が前年度より増えた。 【保護者】確かな学力育成のため工夫を凝らし効果を上げた(+9.9%)、主体的に取り組めるよう学習意欲の向上に力を入れた(+8.1%)、コミュニケーション能力を育成しつながる力を高めた(+6.7%) 【生徒】英語の力が付いた(+6.1%)、国語の力が付いた(+5.6%)、学習に意欲的に取り組めた(+2.9%) △家庭学習の習慣化は、保護者-8.3%、生徒-13/1%と前年度より課題意識が高まっている。基盤となる主体的で自立した生徒の育成に向けた取組が必要。		・授業改善の動きが進んだこと、またその実感が伝わっていることは、大きな意義がある。 ・家庭学習の習慣化については、学校としての取組とともに、家庭の理解・協力を得ながら連携することが必要である。引き続き、自らの目標に向け主体的に取り組む自立した生徒の育成に向けた取組を進めてほしい。	
	生徒指導	1 いじめの状況把握と未然防止の徹底、人権意識の醸成 2 組織的な生徒指導体制の確立と規範意識の向上 3 不登校の未然防止と早期対応及び解決に向けた組織的な体制づくり		・いじめの実態把握と早期対応、いじめの根絶を徹底する。 ・生徒の状況把握を共有し、生徒指導部会・教育相談部会を中心に共通確認し、チームとして生徒に寄り添う指導・支援を行う。 ・教科の指導と生徒指導の一体化を意識した教育実践により、生徒の自己肯定感の醸成や居場所づくり、組織的な対応による丁寧なアセスメントと個に応じた支援により、不登校の未然防止に努める。		○非認知能力育成を目指した教育活動、教科の指導と生徒指導の一体化を意識した教育実践や、生徒指導部会や教育相談部会、特別支援教育部会等を中心とした組織的な指導・支援を行うことができた。 △「生徒指導に熱心に取り組む、家庭と連携しながら、子どもたちが安心安全に学校生活を送れるように取り組んでいる」について約8割の保護者の肯定的評価を得るが、前年度より-6.6%と課題を残した。		・不登校への支援については、学校と保護者だけでなく、支えとなる関係機関の力も借りながら、学習への支援等、中学校卒業後の社会的自立に向けた取組が必要である。	

健康（体育）・安全	1 安全に対する意識の高揚と危機回避能力の育成 2 体力の向上・健康教育の充実、部活動の推進	・避難訓練、非行防止教室、薬物乱用防止教室等を活用し、生徒、教職員の安全に対する意識の高揚を図る。 ・非認知能力の育成について部活動でも意識して指導や支援を行い、異年齢集団での共通の興味関心や目的意識を持ち活動することの楽しさや喜びを体得させる。	○避難訓練、薬物乱用防止・非行防止教室、性の学習、ゲームネット講座等により意識高揚を図った。また、非認知能力育成の視点で部活動も充実させた。 △SNSの取り扱いについては、引き続き、知的理解にとどまることなく人権感覚を高める指導が必要。	・スマートフォンの所持率が高まる中、適切な取り扱いについて指導することが必要。一方で、オンライン授業の充実等、情報機器の効果的な活用も進めてほしい。
特別支援教育	1 校内支援体制の機能化 2 個々の生徒や保護者のニーズの把握と支援の充実 3 個々の生徒の発達特性を踏まえた指導方法の工夫改善	・特別支援教育コーディネーターを中心に、通級指導担当、教科担当、担任、関係機関との連携を強化し、校内教育支援委員会および特別支援教育部会の一層の機能化を図るなど、校内支援体制の機能化を図る。 ・生徒及びその保護者との面談を丁寧に行い、保護者の理解を図り、関係機関と連携した支援の継続に努める。 ・通常学級に在籍する支援を要する生徒も含め生徒の実態を把握し、アセスメント票、個別の指導計画、個別の教育支援計画に基づく指導・支援を充実し有効な手立てを蓄積する。	○生徒・保護者との丁寧な面談、医療機関・支援学校・行政機関との連携や、校内での生徒指導部・教育相談部との連携等による体制整備を行い、通常学級に在籍する生徒も含めて、よりよい指導・支援を継続することができた。 △さらに関係機関と連携し、生徒の実態や生徒・保護者のニーズにあった教育支援を充実させる。	・支援を要する生徒が多くなっていると聞く中で、さらに関係機関と連携し、生徒の実態や生徒・保護者のニーズにあった教育支援を充実させていく必要がある。
開かれた学校づくり	1 信頼される学校づくりの推進 2 地域の教育資源の活用 3 各関係機関との連携と協働 4 学園学校運営協議会との協働	・保護者や地域に対して、さらに誠実・迅速・丁寧な対応に努める。 ・たより、HP等に加え、ICT（iPadや連絡アプリ tetoru 等）の利活用による情報発信に努め、積極的に生徒の頑張りや学校の様子を伝え、地域との連携を深める。 ・各関係機関との連携を強め、生徒及びその家庭への支援を組み立てていく。 ・網野学園学校運営協議会、地域学校協働活動、地域連携による教育活動、PTAとの連携等の機会を通して、本校の教育に対する理解を図るとともに取組の改善を図る。	○「学校を公開し、学校の取組を便り等で十分にお知らせする開かれた学校」と保護者アンケート全項目中で最高となる 82.0%の評価を得るなど、ICT（iPadや連絡アプリ tetoru 等）の利活用が定着し、生徒の頑張りや学校の様子を積極的に発信できた。 ○総合的な学習の時間の「体験活動」等、地域の協力もいただき充実を図ることができた。 △さらに学校評価アンケート、網野学園評価を分析し、今後の学校経営に生かす。 △生徒の頑張り等のさらなる発信方法を模索する。	・各関係機関との連携を図り、地域での作品展や催し物の際での作品展示や活躍機会の設定等、さらに発信の機会を広げる余地があるのではないかと。 ・部活動地域移行の動きについても、地域との連携を強める機会としても位置づけることができる。
次年度に向けた改善の方向性	・「未来を拓く学校づくり」推進事業での研究成果を波及させるように学校経営を行い、さらに本校の学校力向上につなげる。 ・主体的に学ぶための基盤になる自立した生徒の育成を目指した取組を推進する。 ・学園学校運営協議会をはじめ、各関係機関と連携・協働し、地域とともにある学校、信頼される学校づくりをさらに進める。			・教員・保護者だけでは対応困難な課題が多く、地域との連携強化も必要。

(別紙様式3) **令和6年度学校評価学校関係者評価報告**

学校名〔 京丹後市立丹後中学校 〕

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点（短期経営目標）					
○確かな学力の育成と生徒自ら学習に取り組む授業づくり ○豊かな心と健康な体をはぐくむ教育の充実 ○進路指導の充実 ○信頼される学校づくり ○保幼小中一貫教育の推進による教育活動の充実		「本気で本物に挑戦する」という合言葉を学校風土として確立させ、年間とおして目的意識を持たせる学校生活を送らせることができた。結果、行事等で力を発揮した。また、仲間を思いやる態度も育ってきた。 さらに目指すべき事項として、新たな時代に対応できる自己肯定感や自己有用感をより高め、目的達成に希望をもって向かい、学校生活で共に協力し、積極的に取り組む力をつけさせたい。		生徒ひとりひとりが高みを目指し、生き生きと挑戦する学校を創る～生徒と教職員が一丸となり、「本気で高みに挑戦する」を合言葉に進める～ ○生徒が自らの可能性に様々な機会を捉えて挑戦することを促す ○それぞれの教育活動（学習・行事・取組等々）のねらいを明確にし、生徒が主体的に行動することで、高みを目指す。					
評価項目		重点目標		具体的方策		成果と課題（自己評価）		学校関係者評価	
学校教育指導の重点、諸計画及び各学園の重点等、保幼小中一貫教育の基盤として	教育課程 学習指導	・互いの個性を認め合い、互いが高まり合うコミュニケーション能力の育成を図る。 ・GIGAスクール構想に則った一貫性・連続性のある教育課程を編成し、カリキュラム開発を行う。 ・生徒自ら学ぶ態度の育成		・全ての教科でタブレットなどICT機器の活用のスキルを高め、生徒指導上の実践上の4つの視点を生かした授業改善を行い、主体的・対話的で深い学びの実現を目指す。 ・発達段階に応じた指導目標に基づき、指導と評価の一体化した取組を、ICT活用の指導を中心に進め、系統性のある一貫した授業づくりを研究する。 ・タブレット等を活用した生徒主体とする授業改善を進め、家庭学習とも関連付け、自ら学ぶ意欲の醸成を図る。		○教育活動全般で調べ学習や発表資料の作成など、ICT機器を有効に活用した実践ができた。 ○生徒同士の対話から課題解決の方策を見つけたり、ICT機器を活用して課題解決につなげたりと、生徒自らが学ぶ意欲の醸成が図れた。 ○タブレット活用により、生徒個々の進度に応じた学習活動が保障できた。 △多くの情報があふれる中で、情報機器を使った調べ学習で得た内容の取捨選択が課題である。 △ICT活用と家庭学習の定着について結びつけが不足した。		・タブレット学習でグループごとの討議が充実していることが分かった。以前は特定の生徒しか発言しないことがあったが、タブレットを使って全ての生徒の意見が反映できるのは良いこと。 ・一方で、タブレット使用が苦手な生徒はいないのか。 ・書くことも大切だと思うがその点はどうか。	
	生徒指導	・配慮を要する生徒の背景を多面的にとらえ、いじめの防止対策の充実や不登校生徒に対する学びの保障に努める。 ・育てたい力を共有し、教職員の学級経営力の向上を図る。		・日常的な生徒への寄り添い指導や教育相談月間などを全教職員で丁寧に行い、生徒との信頼関係づくりを進めるとともに、子どもが主体となる学習環境を整備していく。いじめ防止対策委員会を定期的に開催し、いじめ調査の結果等を基に丁寧な組織的対応・指導に努める。 ・「丹後学」等を活用した生徒の協働的な活動の場の充実を図り、未来の担い手として「将来の社会的自立」に向けたキャリア教育を進める。		○登下校時の教師によるあいさつや、休み時間の場面で日常の会話を通して、生徒との関係を築くことができた。その効果もあり、生徒が何事にも主体性を持って活動する場面が増えた。 ○定期的にいじめ防止対策委員会を持ち、生徒に寄り添った指導と、未然防止に努めた。 △「丹後学」を通して、探究的な学習を行ってきたが、さらに将来に向けての展望を切り拓く力を身に付けさせる指導が必要である。		・子どもたちの元気な姿が地域でも見られるので安心して いる。 ・丹後学を通してさらに地域学習を充実させて欲しい。	

健康（体育）・安全	・体を鍛えることで、忍耐力などの心の強さも育て、その力を学習にもつなげる。 ・安全な生活の確立に向けて、丹後学園全体で指導を行う。 ・自分や周りの人の命を守る安全教育を行う。	・体育系・文化系部活動にかかわらず、高みに挑戦する心を持たせ、目的を達成しようとする態度と豊かな心の育成を図る。 ・丹後学園一貫 PTA・丹後学園運営協議会等との連携を強め、あいさつ運動（NHD）や登下校指導を継続する。 ・生徒の安全、安心な学校生活のために、安全点検の実施と命に係る授業を実施する。	○部活動を通して、勝敗に立ち向かう強さを培うことができた。文化面では書道パフォーマンスや能、落語体験など幅広い体験の場を作り、生徒の心を揺さぶる指導ができた。 ○丹後学園の諸活動を生徒の取組に乗せ、自ら挨拶する態度や地域とのつながりなど、生徒、地域がかかわり合えるきっかけとなった。 △安全点検後の環境改善につなげることが組織として不足した。（点検後の確認）	・子どもたちの活発な取り組みと成果が伝わってきた。 ・地域で挨拶を返してくれる子どもたちがいて、気持ちが良い。
開かれた学校づくり	・保護者、地域への学校公開等を計画的に行い、地域と共にある学校教育を目指す。 ・学校・家庭・地域との相互の連携を図り、生徒の様子や学園・学校の教育活動を発信していく。 ・地域人材の積極的な活用を行う。	・様々な教育活動の参観を保護者や丹後学園運営協議会の委員など、広く地域の方々へ呼びかけ、いただくご意見や感想を学校経営に活かす。 ・「丹後学」などで丹後を元気にする提言をテーマに探究を進め、地域の取組への積極的な参加を行い、学校だより等の地域回覧・全戸配布や、学校HPへの掲載を通じて、学校教育の充実と地域の活性化の両方を目指した啓発を行う。 ・地域学校協働本部等を活用し、支援ボランティアの支援を積極的に活用する。	○地域の各委員様を招聘した懇談会を年2回開き、いただいたご意見を教職員で共有し、学校運営に活かした。 ○「丹後学」で行った学びを校内作品展示で披露できた。また、発表会にも地域の方をお招きして参観していただいた。 ○地域ボランティアとして、5つの部活動でお世話になり、競技力向上が図れた。また、図書整理、読み聞かせでは年2回お世話になった。	・たくさん学校訪問を企画していただき、学校の様子を見させていただいた。 ・地域の方々が多く部活動でボランティア指導に入っていることに驚いた。地域とつながっていることに安心しました。
特別支援教育	・人権教育をベースとして、生徒のそれぞれの特性についての理解を教職員間で共有し、一人一人の特性にあった支援を、全教育活動を通じて行う。 ・丹後学園や関係機関との連携を丁寧に行い、指導の充実を図る。	・特支学級の生徒と通常学級に配慮を必要とする生徒に対して具体的にアセスメントし、個々の課題に応じた指導・支援を保幼小中の一貫性・連続性を大切に行う。全教職員で課題共有を大切にし、定期的に校内委員会を開催し、組織的な支援を行う。 ・丹後学園内の連携や専門的見立てなどをもとに、校内研修や学園研修会などの充実を図る。また、切れ目なく学ぶことができる教育を進め、子どもの自立へ向けた適切な支援により認知能力と非認知能力の一体的な育成を目指す。	○支援に対するプロジェクトの指定を受け、専門家の見立てを基にした自立活動の計画、全体への発信を行い、組織的な支援ができた。 ○通常学級に在籍する配慮を必要とする生徒への支援について定期的に部会を持ち指導の統一を図った。 △校内委員会を定例化することが時間割の関係上難しかった。 △丹後学園として生徒の状況を交流、組織的な支援を検討する場面設定が不足した。	・丁寧な支援が充実している事到大変感動しました。 ・プロジェクトを活用して、生徒の支援を研究される熱心さにも地域の一人として感謝します。 ・不登校生徒に対する具体的な支援策について、今後も進めたい。
次年度に向けた改善の方向性	・学園共通学習指導の重点「子どもの主体的な学びの変容」を重点とした研究を進めていく。（児童生徒の状況交流と指導法） ・活発な特別活動を重視し、行事・部活動で子どもの活動を支援できる指導体制を整え、生徒が「自ら挑戦」する意欲と行動力を育成する。 ・個々の生徒に寄り添う指導を組織的にを行い、不登校や不安を抱えている児童生徒が学校に来やすい環境整備と指導体制を整える。			

(別紙様式3) **令和6年度学校評価学校関係者評価報告**

学校名〔 京丹後市立弥栄中学校 〕

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点（短期経営目標）	
1 「誠実」を大切にし、全教職員で、生徒・保護者、地域との信頼関係を築く。 2 主体的・対話的に学び、互いに認め高めあうことを通して、人権尊重に基づく人間性豊かな生徒を育む教育課程の編成と実施に努める。 3 基礎的・基本的内容の指導の徹底と定着を図る授業づくり（わかる・できる授業、小中の円滑な接続）を進める。 4 知識技能を活用し、自ら考え、判断し、探究する力・表現する力を伸ばす生徒を育てる。 5 主体的に未来を見つめ、そのための今を大切にし、自分の進路に向かうことができる生徒を育てる。		1 小規模の生徒数、教職員数の強みを生かした教育活動を推進する。 2 1園1小1中の学園体制となることを踏まえ、生徒のよりよい人間関係づくりに焦点を当てた生徒指導、特別活動、人権教育、道徳教育の取組を充実させるとともに、学園としての実践研究を推進する。 3 個々の生徒の状況を面談等様々な機会を介して把握し、個別の適切な支援が進められるよう、教職員間の情報共有を確実にし、組織的な動きに基づいた生徒の個性と能力の尊重に努める。また、このように取り組める教職員集団を目指した研修を重ね、人材育成に努める。		1 弥栄学園保幼小中一貫教育の「目指す子ども像」の具現化を図るため、園小中学校一貫した教育を推進するとともに、全教職員が学校運営に参画する。 2 「生徒が自ら学び、共に考え、学びを深める学校」「違いをよさとして認め、思いやり、支え合い、高めあう学校」「生徒が目標を持ち挑戦しようとする学校」を目指し、生徒にとって居場所のある魅力ある学校づくりをすすめる。	
評価項目		重点目標		学校関係者評価	
学校教育指導の重点、保幼小中一貫教育の重点等、及び各学園の重点等として	教育課程 学習指導	・主体的、対話的で深い学びの実現を目指す授業づくり		・端末を活用したりグループで活動したりしている授業を見ると、授業がかわってきていることがわかる。 ・基礎基本の力の定着を図るとともに、生徒の主体的な学習活動、家庭学習に取り組めるとよい。	
	生徒指導	・生徒指導の実践上の視点を生かした実践の推進と自尊感情の醸成 ・いじめ、不登校の未然防止のための校内組織の構築と丁寧な対応		・教職員間で生徒の情報共有をして指導していることが生徒だけでなく保護者にとっての安心感につながっている。 ・こども園から人間関係が変わらないからこそ、こども園・小学校とのつながりを大切にしたい。	

	健康（体育）・安全	・ 基本的生活習慣の確立 ・ 健康・安全教育の推進	・ 保健・体育の指導による体力づくり及び家庭と連携した基本的生活習慣を確立する。 ・ 保健分野（薬物、性、感染症予防等）及び安全分野（生活安全・交通安全・災害安全）の指導の充実による自他の健康安全に係る自己調整力を育成する。 ・ 登下校の安全確保はもとより、防犯に関する指導及び災害等に対する防災教育の充実を図る。	○年間を通じて、健康安全や保健に関する指導を充実させることができた。 ○外部講師による講話や体験等を通してより正しい知識の習得と危機対応能力の育成に努めた。 △交通安全や自然災害に係る指導について、地域・家庭、関連機関と連携した訓練や支援体制の構築を含めて考える必要がある。	・ 基本的生活習慣の確立において、人間関係づくりの基本である挨拶ができる生徒を育ててほしい。 ・ 防災・安全についても多くの体験活動に取り組んでいることはよい。地域との連携ができるとよい。 ・ 持続可能な部活動と地域移行について今後保護者も交えて考える必要がある。
	特別支援教育	・ 特別支援教育に関する組織体制の充実	・ 特別支援コーディネーターを中心として、支援を要する生徒の教育的ニーズに応じた支援内容を検討し、保護者・生徒と目標を共有しながら支援の工夫改善を図れるよう校内組織体制の機能化を図る。 ・ 一人ひとりの生徒の実態を丁寧なアセスメント等により把握し、すべての生徒にとっての学びやすさ、生活のしやすさにつながる教育環境を整備する。 ・ 研修での学び、専門家の助言等を共有する等、学校組織として教員の特別支援教育に係る資質・能力の向上を図る。	○取り出し指導や個別の課題配信等に取り組む等家庭と連携をして個別の教育的ニーズに応じた支援に取り組んだ。 △特別支援コーディネーターを中心とした校内組織の機能化を図る中で、支援の評価を行い個に応じた支援の質の向上を図る。 △生徒の多様な強みや個性を尊重するための学校としてのアセスメント機能を高め、生徒の学びやすさにつながる環境整備に努める。	・ 生徒個々をとらえるのは難しいと思うが、一人ひとりの実態に応じた支援や教育活動を大切にしてほしい。
	開かれた学校づくり	・ 丁寧で分かりやすい情報発信と積極的な学校公開 ・ P T A ・学園運営協議会・地域の関係機関等との連携の推進	・ 学校だよりや学級通信、ホームページ等で、学校の様子を発信するなど保護者・地域への積極的な学校公開を行う。 ・ P T A や地域の人材や関係機関等とのつながりを活かした連携・協働体制の構築を推進する。	○月1回の学校だより、ホームページの更新等による情報発信を行った。 ○年間を通して弥栄病院に中学生の美術の作品を展示させていただくことは、地域の方への中学校のよき広報となった。	・ たよりが地域に回覧されることで学校の様子がわかる。 ・ 美術作品の展示は大変よかった。更に、地域住民が集まる場所での展示もあるとよい。
次年度に向けた改善の方向性	1 「探究的な学び」をとおしたグローバル人材の育成の実現に向けた授業改善と研究活動の推進 2 授業と連動する家庭学習の研究と情報端末の効果的な活用の推進 3 全ての教育活動において発達支持的生徒指導の推進をとおした生徒にとって安心・安全な学校づくりの推進 4 弥栄学園の組織を基盤とし、学校（学園）、保護者、地域、関係機関との協働・支援体制の展開。 5 家庭や地域への丁寧で分かりやすい実践の発信				・ 弥栄を大切に思い、弥栄に帰ってきたと思える教育を大切にしてほしい。 ・ 学校と保護者だけでなく、より一層の保護者間のつながりも大切にできるとよい。

(別紙様式3) **令和6年度学校評価学校関係者評価報告**

学校名〔 京丹後市立久美浜中学校 〕

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点 (短期経営目標)
<久美浜学園> 指導の重点: 学力向上 (1) 基礎・基本の徹底 (2) 主体的に学ぶ力の伸長(授業づくり) (3) 家庭学習時間の確保 ◇規範意識の醸成を基盤とし、当たり前のことが当たり前でできる学校、「命」「今」「仲間」を大切にできる学校を目指す。 ◇久美浜学園保幼小中一貫教育の一層の推進により、指導観について共通理解を図り、系統的、組織的な教育実践を推進する。 1 非認知能力の伸長と、「主体的・対話的で深い学び」を追求した授業の充実による学力の向上 2 好ましい人間関係の構築と自己肯定感・自己有用感の向上 3 不登校の未然防止と不登校(傾向)生徒の改善 4 「久美浜学園学校運営協議会」を核とする地域力と学校力を統合した、地域ぐるみの子育て支援体制の確立		○学校のデジタル改革を目指した指定事業を活用し、多くの成果発表会、研修会、公開授業等を実施した。ICTを効果的に活用した授業づくりの取組の活性化により、教員一人ひとりの意識と授業力が向上したとともに、生徒の協働的な学びや学力向上の面で大きな成果が見られた。 ○SDGsの取組をはじめとする生徒会活動がさらに活性化した。取組は久美浜学園全体に広がり、環境関連フォーラムでの発表等、町外にも積極的に発信することができ、生徒の自信や自己肯定感の高まりに繋がった。 ○よさのうみ支援センターや各病院・クリニックなど、多くの関係機関との継続的連携により、専門家の助言を生かした根拠ある見立てと効果的な指導が可能になった。 ○同窓会との共催により「くみちゅうキャリアフェスティバル2023」を開催するとともに、遠隔交流事業など丹後緑風高校久美浜学舎との共同事業を数多く展開し、地元や地元の学校に対する意識が高まった。 △今後は、不登校を含むすべての生徒一人ひとりを伸ばすための個別最適な学習の研究や推進を重点的に展開していく必要がある。 △アフターコロナにおけるコミュニケーション力の回復が課題。 様々な主体的活動の活性化が必要である。		1 教育活動の重点的方針 (1) 価値観の変化への対応と多様性を踏まえた教育活動の精選、新たな生徒指導及び教育相談の充実 (2) 認知能力と非認知能力を一体的にはぐくむ授業改善の推進 (3) 地域に貢献できる人材の育成を目指した「久美浜ならではの教育」と「開かれた教育課程」を進めるためのカリキュラムマネジメントの推進 2 職務上の重点的指針 (1) 学習指導要領の趣旨に沿った授業づくりのための教員の資質向上 ・評価方法や授業展開等における研修の充実 ・「開かれた教育課程」を目指した地域資源や丹後学を活用した授業づくりの推進 (2) 生徒指導提要の趣旨に沿った生徒理解の推進と組織体制の整備 ・発達支持的生徒指導の具体に関する研修の充実 ・新たな不登校生徒へのアプローチとICTの活用 (3) 教職員の働き方改革推進及び服務規律の徹底 ・勤務や勤務時間に対する意識改革 ・通信機器や個人情報に係る危機意識の向上
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題(自己評価)	学校関係者評価
学校教育指導の重点、保幼小中一貫教育の重点等	教育課程 学習指導	◇全国及び京都府学力・学習状況調査等の結果から、生徒の状況を「探究的な学び」の視点で把握 ◇ICTを活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な授業づくりの推進 ◇タブレットの持ち帰りによる家庭学習の充実 ◇定期テスト改革推進と定期テストのみに依拠しない単元や定着を重視した評価の場の設定 ・各教科のシラバスと評価方法の提示 ◇グローバル人材の育成と英語力の向上	○「学びのパスポート」を活用して、質問事項から「探究的な学び」の視点で18項目を抜き出して、府平均に対する分析を行い、本校生徒の状況を把握した。 ○一部の教科ではあるが、単元テストを数回にわたり設定し、生徒の意欲向上に努めることができた。 △タブレットの持ち帰りは全校生徒に定着しているものの、ネットワークを活用した家庭学習の充実には不十分さが残り、今後研究を進める必要がある。	・タブレットの操作も全ての子ども達で慣れているのがよくわかる。これからの時代に必要な技術だと思うが、紙と鉛筆の学習や辞書を引くなどには無くてよいのかと思う面もある。 ・いろんな子がいるので、ハイブリッド方式は継続してもらいたい。
	生徒指導	◇「いじめ・不登校未然防止」に向けた迅速な情報共有と丁寧な組織的対応 ◇不登校・不適応傾向生徒に係る課題解決に向けた取組 ◇主体的活動の活性化 ・SDGsの取組の充実	◇生徒指導・教育相談・特別支援教育の一体的展開 ・専門的な意見を取り入れたアセスメントの充実 ◇別室機能のさらなる強化と学習補充の充実 ◇生徒会活動・学級活動の充実と継続 ◇SDGsの取組継続と丹後学・横断的学習の展開 ◇討議・話し合い活動の場の設定 ○12月末現在の不登校(傾向)生徒数は昨年度比で5名の減となり、未然防止に向けた組織的な対応をとることができたといえる。 ○SDGsの取組では生徒会を中心に継続して実施し、保幼小中を通して活性化を図ることができた。 ○生徒会を中心に、校則について考えることができた。	・不登校の改善は、回復ではなく、新規を出さない未然防止であることが分かった。来年も継続して未然防止を行い、更なる減少に期待したい。

健康（体育）・安全	◇実効性ある危機管理マニュアルの確立、避難訓練等の充実等	◇緊急時対応訓練の実施（土砂災害、火災、不審者、地震） ◇感染防止を含む健康安全に関する自主的な向上意識を高める指導とマニュアルの徹底 ◇健康・安全に関する教育の充実	○コロナ禍を経て、マスク着用や手指消毒等が一定定着しており、ウイルス感染防止は概ねできている。 △京丹後警察との連携を一層深め、不審者の対応については継続して学習する必要がある。	・コロナも5類に変わり、マスクを外しても良い場面が増えたと思うが、それでも外せない生徒がいるのは気になる。
特別支援教育	◇校内指導体制の機能化 ◇通常学級における特別に支援を要する生徒に対する個に応じた指導の充実 ◇合理的配慮の継続的検討と組織的対応	◇特別支援教育の視点で展開する全教育活動の展開 ◇特支アセスメント・個別の指導計画・個別の支援計画・小中連携資料・教育相談個票の日常的活用と検証、全教員での共有化 ◇支援を要する生徒の把握、有効な手立ての蓄積 ◇担任並びに担当者と本人・保護者との丁寧な懇談 ◇通級指導の実施、保護者・教科担当・担任・関係諸機関との連携の強化	○特別支援教育コーディネーターを中心にして、校内の指導体制を機能させることができた。 ○支援を要する生徒の学びの場を検討することで不登校の未然防止を図ることができたケースがあった。 ○保護者連携についても、タイミングを逃さず継続的に行うことができ、個別の支援を両輪で行えている。 ○よさのうみ支援学校や各病院との連携についても、昨年度に引き続き実施しており、効果を上げている。	・学びの場を変えることで、学校に来れるようになった生徒の話は良かったと思う。 ・今は本当にいろんな子どもさんがおられるので学校も大変だと思うが、それぞれの生徒や家庭に寄り添ってもらえたらありがたいと思う。
開かれた学校づくり	◇キャリア教育の横断的展開と地域連携の強化 ◇学校運営協議会を窓口とした校内教育活動の展開	◇丹後学の充実…丹後学・ふるさと学習・体験学習の一体的展開 ◇学校運営協議会・地域学校協働活動と学校教育活動の実効性ある一体化 ◇学校運営協議会を窓口にした地域人材の活用…講話学習・授業への積極的活用 ◇学校支援ボランティアの積極的活用・拡充 ◇同窓会等と連携したふるさとと母校を愛する心情を育てる取組の推進 ◇地元高等学校との連携共同事業の活性化	○同窓会と連携したキャリアフェスティバルでは、町内出身で地元企業の代表取締役社長を講師にお招きして講話を拝聴し、生徒会本部とのトークセッションを行うことができた。 ○1年生での体験学習を見直し、地域の年配者に思いを聞かせて貰いふるさとを愛する取組の一助となった。 △地元高等学校との連携共同事業については、一定行えたものの、昨年度と比較すると活動回数は減少した。	・同窓会のふるさと講演会が本年度も生徒とともに開催できて良かった。生徒が地元で活躍している大人と対等に話ができる場面を持つことは本当に有意義だと思う。これからも、できるだけ協力していきたい。
次年度に向けた改善の方向性	◇学習や人間関係、家庭環境や生活習慣などについて、一人ひとりに対しての丁寧な指導・支援を展開し自立を促す。組織的かつ早期に対応を行い、特別支援教育の視点も踏まえながら、より一層学校不登校出現率を改善する。 ◇生徒指導提要における授業づくりの4つの視点『①自己存在感の感受 ②共感的な人間関係の育成 ③自己決定の場の提供 ④安全・安心な風土の醸成』に沿った授業改善を進め、「わかった」「たのしい」と思える学級や授業づくりを進めていく。 ◇ICTを活用し、個別指導・家庭学習などの充実、学習の場の提供などを促進し、個別最適な学びの実現に向け、環境整備や研修等を充実させる。			・久美浜中の子たちが、地域を知って、一旦都会に出て行っても、また地元で頑張ろうと思えるよう応援してほしいと思う。